

講師に京都大学教育推進・学生支援部 入試企画課 荻野隆司 先生をお招きして、テーマ「国立大学の魅力」、サブテーマ「国立大学の学びで将来をどう切り開くか」「県外の国立大学に進学する意義」として、大学進学ガイダンスを実施しました。

国立大学は圧倒的に豊富な予算を得て、充実した教育環境を持っており、企業との共同研究も盛んに行われている、京都大学でも多様な研究、自由な枠にはめない研究が実践されている、ということでした。

京都市は、人口の1割が学生と言われており、正に「学生の街」です。県外の大学へ進学し、自宅から離れることで自立や自律する力が育ち、また、そのような力は、社会人として求められる力の一つとなります。

近くだからとか、偏差値だとこの辺りだから、ということだけではなく、その大学で何が学べるのか、大学の理念やアドミッションポリシーにも注目して志望大学を決めることが大切です。そして、高校生の今、なすべきことは、毎日の授業を大切にすることです。予習・復習は大学でも必要です。教科書の内容はすべて理解するつもりで取り組みましょう。高校でしか経験できない学校行事を思い切り楽しむ、部活動や地域の活動に取り組むのも良いでしょう。早い準備をするためにも、将来どのような学びを研究をしたいのかをしっかりと検討し、計画的に過去問などに取り組むことです。そして最後は体力と精神力です。

以上のようなお話を聴いて、生徒たちは国立大学の理解を深めることができ、学習への意欲が沸き立つガイダンスとなりました。

<講演の様子と生徒の感想>

大学を近いからという理由だけで選ぶのではなく、折角4年間大学に行くのだから、自分が学びたい学部を選ぶことが大切である。地元を離れ、親元を離れることで身につく力があることが分かりました。

国立大学では、圧倒的に教育環境が整っていることに驚いた。学びたい学問に国立大学であれば出会えるのだと確信した。目標を高く持って国立大学を目指して頑張りたい。

国立大学の強みを聞き、自分の第一志望により興味を持った。日々の授業や行事などを大切にしようと思った。



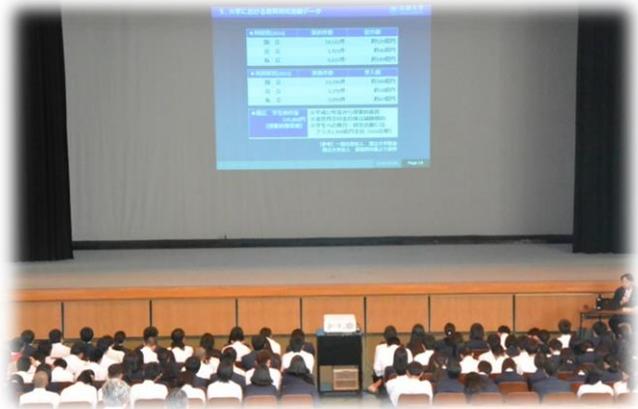


入試には準備がとにかく必要なんだと思いました。「模試の結果で一喜一憂してはいけない」という言葉が印象に残りました。判定を気にしすぎて油断したりあきらめたりしないようにしたいと感じました。

大学の情報収集をしっかり行おうと思った。その際に他県の大学も考えてみたい。教育理念やアドミッションポリシーについても研究することが必要だと思った。

まずはこれまでの学習を振り返り、何が苦手で何が理解できていないかを把握した上で復習していきたいです。また、志望校のことをもっと調べて、過去問を解いたりして準備していこうと思いました。

今一度、自分が興味のある大学についていろいろと調べてみようと思った。今日の講演を聞いて、ますます国立大学に行きたいと思ったので、しっかり授業からおろそかにしないようにしようと思います。



その1 毎日の授業を大切に

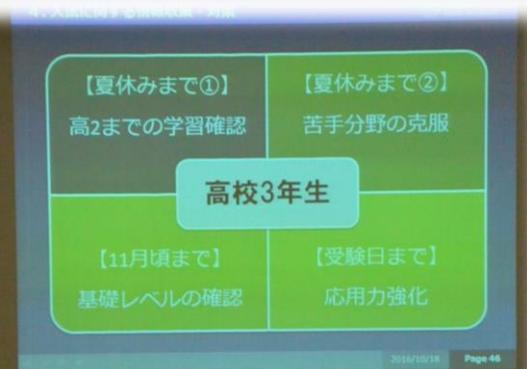
- 予習や復習は大学でも必要です
- 教科書の内容をすべて理解しようと努力すること

その2 学校行事を徹底的に楽しもう

- 大学にはクラスがありません（時間割も自分で作ります）
- 文化祭や体育祭は高校時代までしか体験できないこと

その3 クラブや地域活動にも取り組む

- 「好き」は他者が教えられない
- 自分が主体となって取り組める（打ち込んだ）なにか



「将来、何を学びたいか、何を研究したいかをみつけよう！」
がんばれ美高生！！